

# 城南家保ニュース Vol.27-6

熊本県城南家畜保健衛生所

〒868-0042 人吉市蟹作町一本杉 1237-1

TEL 0966-22-3814 FAX 22-3617

E-mail [jounankaho@pref.kumamoto.lg.jp](mailto:jounankaho@pref.kumamoto.lg.jp)

ホームページ <http://www.pref.kumamoto.jp/kahojounan>



## 高病原性鳥インフルエンザ防疫演習に係る焼却処分検討会を開催

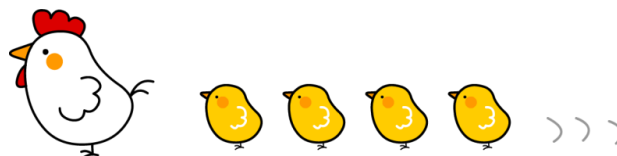
平成27年9月2日、熊本県高病原性鳥インフルエンザ防疫演習において焼却作業検証を実施しました。本県のマニュアルにおいては、鳥インフルエンザ発生時に殺処分した家禽について埋却が困難な場合には、焼却処分を検討することとしています。本演習では、合志市の県立農業大学校を発生農場、熊本市の東部環境工場を焼却施設として設定し、本県マニュアルに基づいて、殺処分鶏の段ボール梱包、パレットの積み上げ、ラッピングまでの準備作業とウイルス散逸防止に留意した運搬、そして、バイオセキュリティに配慮した焼却施設への受入から焼却炉への投入まで一連の作業の検証を行いました。今回の検討会の結果を踏まえ、10月7日に県庁において熊本県高病原性鳥インフルエンザ机上防疫演習を行い、検証結果をマニュアル改定に反映させる予定です。



## 平成27年度熊本県鶏病技術研修会が開催されました

平成27年8月28日に、熊本県中央家畜保健衛生所において、平成27年度鶏病研究会熊本県支部鶏病技術研修会が開催されました。『伝染性気管支炎生ワクチン混合投与による抗体スペクトルと接種反応』や『農場 HACCP 取組農場から学んだ養鶏農家における防疫意識改善案』など、5つの演題発表が行われました。それぞれの演題が、非常に興味深いものであり、県内における鶏病技術に関する様々な取組を知ることができました。

それらの演題の中から、当家保の『肉用鶏農場で発生した鶏封入体肝炎』が、熊本県代表として選出され、10月に長崎で開催される九州鶏病技術研修会において発表することとなりました。発表もさることながら、九州各県を代表する課題等について勉強し、日々の業務に役立てたいと思います。

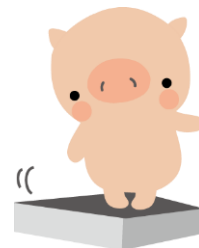


## 早めの寒さ対策をお願いします!!

猛暑の季節を過ぎ、夜間は肌寒さを感じる季節になりました。暑熱との戦いを終わると、程なくして寒冷との戦いが訪れます。寒冷対策は大丈夫でしょうか？台風15号の影響で、畜舎に被害があった農場もあるかと思imasので、寒くなる前に畜舎の破損箇所等のチェックを行っておきましょう。今回は、豚の寒冷ストレスについて簡単にまとめたいと思います。

豚は全てのステージにおいて、寒冷ストレスの影響を受けます。寒冷環境下では、母豚や肥育期の豚は体温維持にエネルギーを消費するため、泌乳量や1日あたりの増体量が低下します。雄豚は寒さに強いのですが、精液性状に影響（精子数減少、活力低下など）がみられることがあります。気付かないうちに生産性が低下しているかもしれません。豚にとって快適な環境を作るために、下記の内容をチェックしてみてください。

- ・風が直接豚に当たっていませんか？また、隙間風が入っていませんか？豚の周辺の風の流れをチェックしてみてください。
- ・壁の断熱はしていますか？部屋毎に温度管理されているウインドレス豚舎においても、壁から伝わる冷気には注意が必要です。豚が感じている温度は、設定温度より低い場合があります。
- ・畜舎内温度の計測は寒冷対策の基本となります。毎日の計測をお願いします。また、場所によっても温度は異なるので、複数箇所で計測してください。



## 近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	発生地	発生日	畜種	型
高病原性 鳥インフルエンザ	台湾	7月28日	あひる	H5N8
		7月24日～7月29日	地鶏、あひる、がちょう	H5N2
	中国	8月3日	がちょう	H5N2
		8月6日	家きん	H5N6

8月17日現在

### 編集後記

先日、養豚農場研修を受けました。研修先はSPF豚農場で、とてもきれいな農場でした。病気になる豚は10日間で5頭程度だったので、母豚300頭規模の農場ではかなり少ないと思います。洗浄・消毒の徹底が1つの要因なのだと思います。私も1部屋やらせてもらいましたが、厳しいチェックにより3回目で合格でした。天井から床までの細かい溝や隙間の汚れを丁寧に落とす作業はかなりの重労働でしたが、この地道な作業が病気予防の基本だと実感しました。基本と地道な作業の重要性について、改めて学ぶ良い機会になりました。(防疫課 F.T)